

# 千葉県立中央博物館 施設整備計画原案

---

はじめに 計画策定の趣旨

1. これまでの経緯

2. 施設整備の基本方針

2-1 基本的な考え方

2-2 必要諸室と概要

3. 建設候補地と建物

3-1 基本的な考え方

3-2 建設候補地

3-3 諸室構成

4. 施設整備スケジュール

5. 展示エリアの基本方針

5-1 基本的な考え方

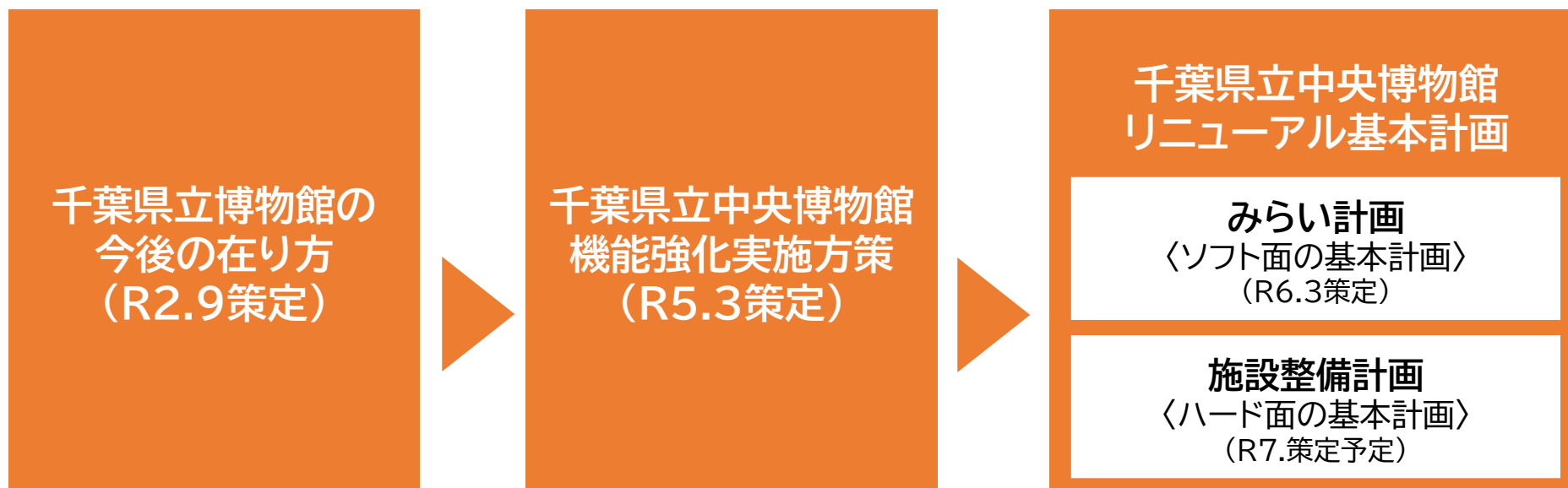
5-2 展示構成

5-3 各コーナーの考え方

※赤点線部分は次回の会議でお示しします。

令和2年9月に策定した「千葉県立博物館の今後の在り方」において、中央博物館の機能強化を図り、専門職員と博物館資料を集約する方針を定めました。この方針に沿って中央博物館の強化すべき機能を整理し、令和5年3月には「千葉県立中央博物館機能強化実施方策」を策定しました。

これらを踏まえ、令和6年3月にはリニューアルを見据えたソフト面の基本計画として「千葉県立中央博物館みらい計画」を策定しました。これをうけ、常設展示の見直しや博物館資料を収蔵するスペースの確保に必要な設備等について検討し、ハード面の基本計画として「施設整備計画」を策定します。



## 【1】千葉県立博物館の今後の在り方(令和2年9月策定)

今後の県立博物館の役割や再整備の方針について整理するとともに、施設整備についての方向性を以下のとおり示しました。

### ○役割

全県域を俯瞰した資料の収集・保管、調査・研究、展示・教育普及等を行うとともに、県の魅力、県民の誇りとなるような文化・自然等の発信・紹介に努める。

### ○考え方

**中央博物館**：知の創造拠点として、これまで以上に県内の博物館活動の拠点としての役割を果たせるよう、調査・学術研究、博物館資料救済、文化財の保存・活用、人材育成等の機能を強化する。創造した知見が県の内外、さらには海外にも発信され、誰もが千葉県の魅力に触れ、学び親しむために、何度も足を運びたい博物館を目指す。

- ・ **本館**：人文科学系の専門職員と博物館資料を集約するとともに、従来の自然系活動の優れた部分を活かし、学術研究機能を中心に収集・保管、展示機能を強化する。
- ・ **分館海の博物館**：研究機能等を発揮する上で海辺に設置する必要があるため、現状の運営を継続する。
- ・ **大利根分館**：早期に廃止の時期を決定するとともに、地元由来する博物館資料については、できる限り地元で有効活用されるよう協議を進める。
- ・ **大多喜城分館**：地元町における有効活用に向けた協議を進める。

**房総のむら**：指定管理者制度を導入し、一定の成果を上げていることから、現状の運営を維持する。

**関宿城博物館**：地元市における有効活用に向けた協議を進める。

**現代産業科学館**：継承すべき内容や活用方法等について協議していく。

### ○施設整備について

#### ・常設展示

開館以来更新されていない常設展示については、ワンストップで、千葉県の自然・歴史・文化等に触れることができるようリニューアルに取り組みます。新たな展示には、自然科学・人文科学等の学問領域を融合した総合力に秀でた内容とすることが求められます。さらに、時事的な話題を随時紹介でき、充実した企画展示が可能となるようスペースの確保や可変性の高い展示室とすることも必要です。

#### ・収蔵庫

総合博物館として、集約化する資料の保管用スペースを確保することに加え、様々な素材からなる博物館資料を適切に保管するために複数の恒温恒湿機能、文化財害虫の侵入を許さない密閉機能、不活性ガスによる消火機能、高いセキュリティ機能等も備える必要があります。

さらに、近年多発している風水害にも対応できるような防災機能を備えるとともに、被災施設の資料を一時的に保管するスペースも確保する必要があります。

## 【2】千葉県立中央博物館機能強化実施方策(令和5年3月策定)

「千葉県立博物館の今後の在り方」に基づき、中央博物館の強化すべき機能及び施設整備の考え方について、以下のとおり整理しました。

## ○強化すべき機能

- ・総合博物館としての高度化:自然系、人文系共に強く、両者が連携した活動を展開
- ・地域連携ステーション:県内博物館の拠点となり、地域連携や地域振興に貢献
- ・アーカイブセンター:資料のデジタル化の促進や一元管理の実現

## ○施設整備について

大項目	取組	説明
常設展示室	人文科学系を充実させ自然科学と併せた総合展示としてリニューアル	これまで地域館に分散していた人文系展示を集約することで、本県の自然、歴史、文化にワンストップで触れることができる
	可変性・柔軟性があり、最新技術を活用した展示	10年程度の将来を見据えた展示計画の見直しに対応でき、時事的な話題を紹介できる什器や展示構成とするとともに、新技術にキャッチアップできるよう、大学や企業との連携による展示更新を図る
	業界標準への対応	技術面の課題を検討し、国宝など高いレベルの展示に対応可能な機能を有した展示室にリニューアルする
企画展示室	レイアウトの見直し	事実上、第1、第2に分かれているレイアウトを見直し、来館者目線でレイアウトをリニューアルする
	業界標準への対応	技術面の課題を検討し、国宝など高いレベルの展示に対応可能な機能を有した展示室にリニューアルする
収蔵庫	防災機能の高い収蔵庫	激甚化する自然災害から収蔵品を守るとともに、被災施設の資料を一時保管するなど、県内の博物館資料救済ネットワークの拠点としての機能を有する
	集約資料等、将来を見据えた保管スペースの確保	地域館から集約する人文系資料や、被災施設の資料を一時的に保管するスペースなど、将来を見据えた保管スペースを確保する
	恒温恒湿機能	様々な素材からなる博物館資料を適切に保管する複数の恒温恒湿機能を有する
	総合的有害生物管理への対応	文化財害虫の侵入を許さない密閉機能を有する
	不活性ガスによる消火機能	貴重な収蔵品を火災から守る消火機能を有する
	高いセキュリティ機能	貴重な収蔵品を盗難や破壊活動から保護する機能を有する
その他	ショップ・レストランの魅力向上	展示を見る以外にも、憩いの場として県民が過ごすことができる場を目指す
	閲覧スペースの整備	レファレンスサービス充実のための閲覧スペースを整備する
	団体対応スペースの整備	学校連携やインバウンド対応等を進めるため、食事等の休憩ができるスペースを整備する

### 【3】千葉県立中央博物館みらい計画(令和6年3月策定)

「千葉県立博物館の今後の在り方」「千葉県立中央博物館機能強化実施方策」を受け、ソフト面の方向性を整理しました。

#### ○これからの中央博物館

自然系機能を維持・発展、人文系機能を集約・強化※することで総合博物館としての機能を強める

#### ○目的

県内博物館の中心となり、自然と歴史、文化に関する県民の知的需要にこたえ、生涯学習及び地域づくりに貢献し、ひいては科学の進歩・社会の発展に寄与する

#### ○テーマ

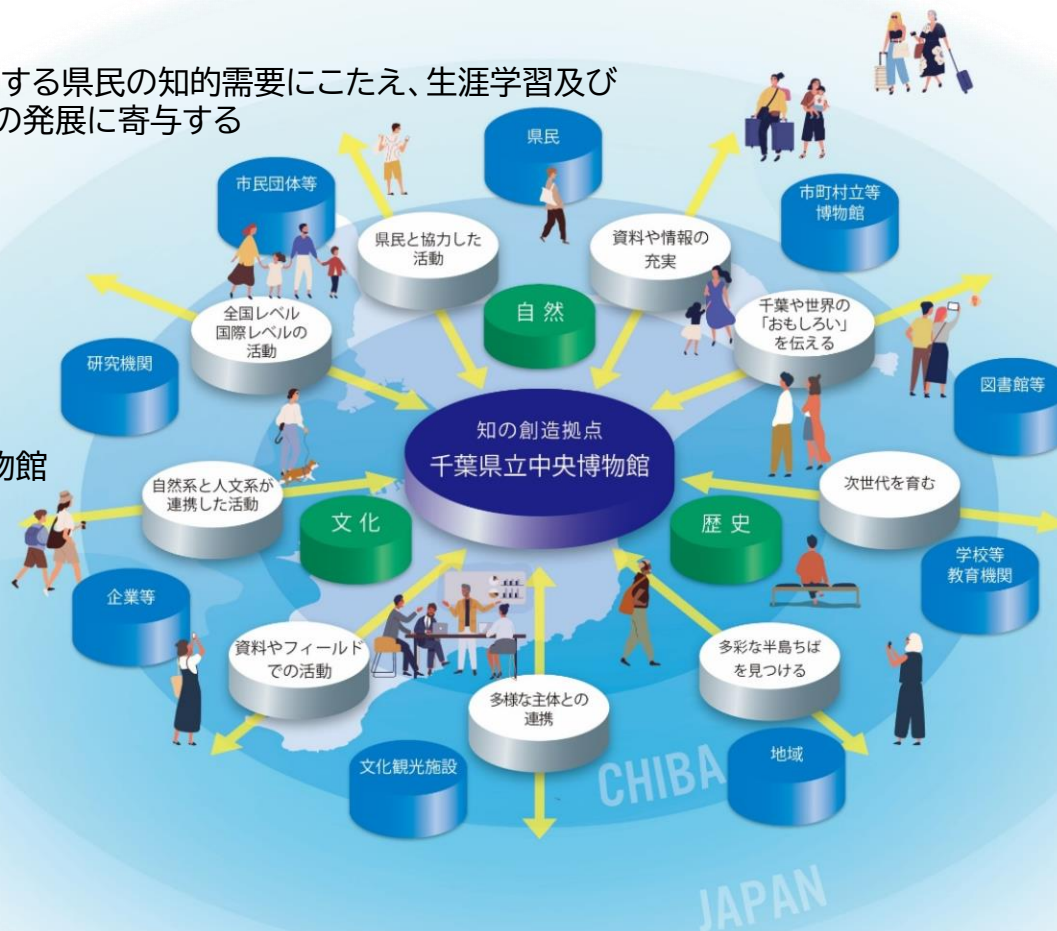
自然と歴史、文化

#### ○基本コンセプト

多彩な特徴をもつ半島ちばの未来を切り拓く

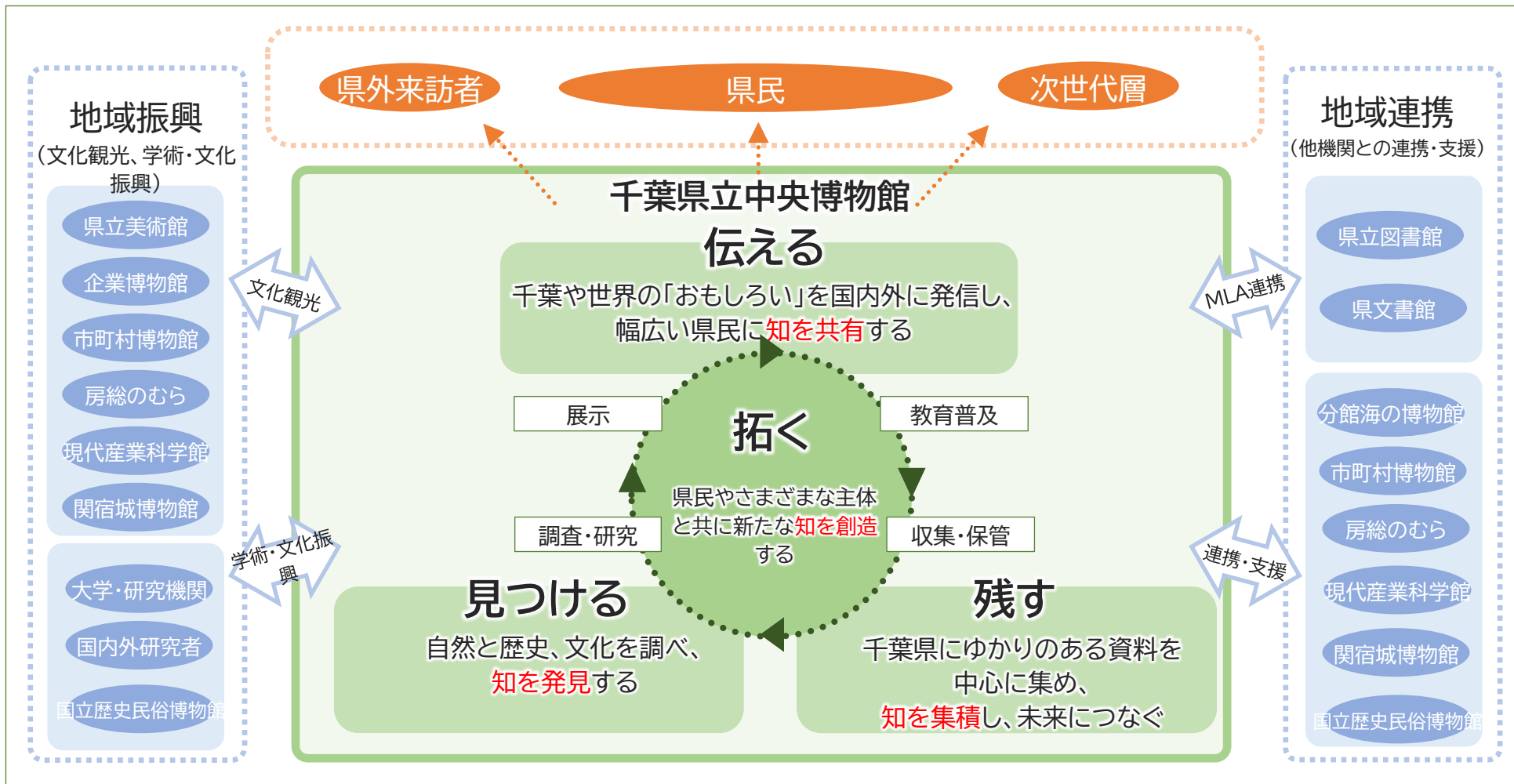
#### ○目指す姿

- ・千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館
- ・千葉から世界に拓く博物館



※大多喜城分館及び大利根分館の機能は集約予定。関宿城博物館及び現代産業科学館については在り方検討中。

【3】千葉県立中央博物館みらい計画(令和6年3月策定)



### 2-1 基本的な考え方

これまでの経緯を踏まえ、施設整備の基本的な考え方を以下のとおり定めます。

#### 施設コンセプト

幅広い県民とともに、千葉をつなぎ、世界に拓く、  
「**知の創造拠点**」としての施設の具現化

#### ①収集・保管

- ・地域館から集約する資料を継承するスペースの確保
- ・他機関の被災資料のレスキューが可能な場と設備の設置 **連携**
- ・継続的な資料収集を見込んだ収蔵庫などの確保
- ・時代にあった資料の作成、整理ができる設備の充実

#### ②調査・研究

- ・自然と歴史、文化の調査・研究が滞りなく実施できる設備の整備
- ・職員の高度な専門性を活かした科学の進歩に寄与する研究を支える設備の充実
- ・長期的・組織的研究方針に沿った施設整備

#### ③展示・教育普及

- ・自然と歴史、文化を扱う総合展示としてリニューアル
- ・千葉の「おもしろい」が来館者一人ひとりを知の探究・創造へと導くため、見える収蔵庫や閲覧スペース等の整備
- ・幅広いテーマの企画展を実現し、**公開承認施設の基準を満たす施設に整備**
- ・多様な団体や市民等が活動できる場や、様々な機関等との**連携**を視野にいれて施設の整備 **連携**
- ・千葉の文化観光へ貢献する場を整備 **振興**

#### ④運営

- ・誰もが使いやすく、楽しめる、県民に開かれた施設とするための配慮
- ・ショップやレストラン、赤ちゃん休憩室等のアメニティ設備の充実
- ・環境負荷に配慮した施設の整備
- ・あらゆる人が千葉の魅力や博物館事業に触れられる環境を**確立** **デジタル**

## 2-2 必要諸室と概要

2-1 基本的な考え方を踏まえ、収蔵庫、研究諸室、展示関連施設、事務関連施設等の必要な諸室とその概要をまとめます。

## ① 収集・保管

■ 新設する諸室

機能	区分	概要
収蔵	乾燥資料関係の収蔵庫	地域館から集約する資料を含め、各分野(地学系、植物系、動物系、考古系、歴史系、民俗系、貴重書など)の資料の収蔵庫。 (一部は見える収蔵庫とすることを検討。)
	液浸標本関係の収蔵庫	ホルマリン保存、アルコール保存の資料の収蔵庫。
	冷凍・冷蔵資料関係の収蔵庫	DNAサンプル等冷凍・冷蔵保存の資料の収蔵庫。
	レスキュー資料用収蔵庫	長期保管が必要な処理済みレスキュー資料の保管場所。
資料作成・整理	資料一時保管庫、冷凍庫室 など	燻蒸や処理前の資料を保管する場所。
	標本製作室、整理作業室 など	各分野の標本作成や資料整理作業を行う場所。
	資料洗浄室、動物処理室 など	各分野の資料の前処理やレスキュー作業を行う場所。
資料管理・活用	燻蒸室	資料のガス燻蒸を行う場所。
	資料・標本閲覧室	資料や標本の閲覧、貸出準備等を行う場所。

## ② 調査・研究

機能	区分	概要
実験	実験室、分析室 など	各分野の実験や分析等を行う場所。
	薬品庫	各実験等に使用する薬品を収める場所。
図書	閉架図書 など	専門書等の保管場所。
資料作成・整理 【再掲】	資料一時保管庫、冷凍庫室 など	燻蒸や処理前の資料を保管する場所。
	標本製作室、整理作業室 など	各分野の標本作成や資料整理作業を行う場所。
	資料洗浄室、動物処理室 など	各分野の資料の前処理やレスキュー作業を行う場所。
資料管理・活用 【再掲】	資料・標本閲覧室	資料や標本の閲覧、貸出準備等を行う場所。



## 2-2 必要諸室と概要

## ③展示・教育普及

■ 新設する諸室

機能	区分	概要
展示	常設展示室	「自然と歴史、文化」に関する常設展示のスペース。 (一部体験的な展示を導入。収蔵庫の一部を「見せる収蔵庫」等とすることを検討。)
	企画展示室	特別展示等を行うスペース。 (展示するものに応じて自由にレイアウトできる構造)
展示準備	展示準備室、工作室 など	パネル印刷等の準備を行ったり、工具等の保管をする場所。
	展示用具倉庫、レプリカ庫 など	展示ケース、展示台、演示台、展示用レプリカ資料等の保管場所。
教育普及	レファレンスコーナー、図書閲覧室 など	県民が千葉の「おもしろい」を探究するため、図書の閲覧や来館者の質問等に応える場所。
	講堂、研修室 など	講演会や講座等のイベントを実施する場所。
	多目的スペース など	多様な人々が交流する場所。ボランティアや団体利用者等が活用する場所。
	普及事業用倉庫	学習キットや配布物等の保管場所。
生態園	オリエンテーションハウス、 野鳥観察舎 など	生態園の紹介や生き物を観察するための場所。 (ビジターセンターとしての役割。ボランティア等の活動場所を兼ねる。)
	管理棟 など	生態園を管理するための場所。

## 2-2 必要諸室と概要

■ 新設する諸室

## ④ 運営

機能	区分	概要
利用者サービス	救護室	具合が悪くなった方などを救護する場所。
	赤ちゃん休憩室	授乳やおむつ替えなどができる場所。
	レストラン	人々が集い、憩い、交流する場所。
	休憩・交流スペース	人々が集い、憩い、交流する場所。
	ロッカー室 など	大きな荷物等を預けられる場所。
	ショップ	利用者ニーズを踏まえた商品を販売する場所。
職員執務	館長室、事務室、研究室 など	職員が執務する場所。
	応接室、会議室 など	来客対応や打合せを行う場所。
	事務用倉庫 など	事務用品や書類等を保管する場所。
	印刷室、更衣室 など	職員が執務をする上で必要な諸室。 (必要に応じてボランティア等も利用。)
博物館運用	搬入口、荷解き室 など	トラック等で資料や荷物を搬入出し、展開する場所。 (公開承認施設の基準を満たす構造とする。)
	サーバー室	情報システムに関わる機器を一括して管理する場所。
博物館管理	警備室、清掃員室、機械室 など	博物館の日々の運営に必要な諸室。

## 3-1 基本的な考え方

施設整備の方針とこれまでの経緯等を踏まえ、引き続き青葉の森公園内に設置することとし、老朽化した既存施設の改修や増床を図ります。

## &lt;現中央博物館の成り立ち&gt;

【千葉県立中央博物館設置構想（昭和48年）】

- ・ 県立博物館施設の総合センターとして県の中央である千葉市に本館を設置し、房総の自然環境がよく保存されている場所に分館を設置

【千葉県立中央博物館（仮称）基本構想（昭和58年）】

- ・ 保存のよい樹林地や池があり、様々な生物が生息する青葉の森公園に設置し、生態園を併設

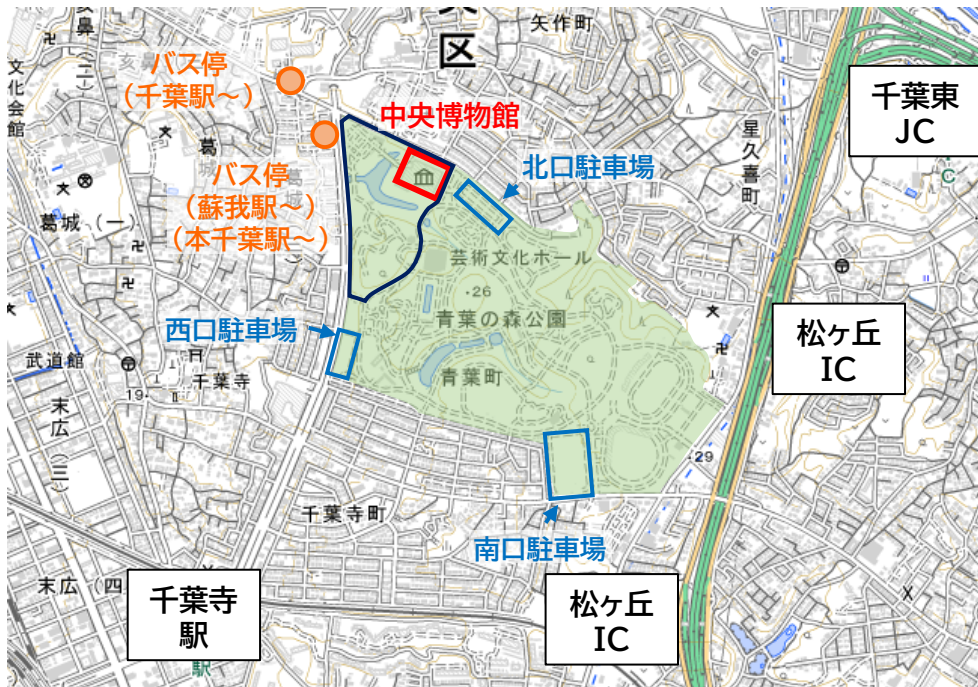


現中央博物館の概要

	建物構造	面積(m <sup>2</sup> )	備考
敷地面積	—	66,178	本館+生態園 (舟田池を除く)
中央博物館 (本館)	地上2階・地下1階 鉄骨鉄筋コンクリート造	15,254	
オリエンテーションハウス	鉄骨平屋	216	
野鳥観察舎	鉄骨平屋	82	
管理棟	鉄骨平屋	270	

#### <青葉の森公園の立地のポテンシャル>

- ・自然鑑賞やレクリエーション、文化・スポーツといった機能もあわせもつ緑に調和した文化の香り高い総合的な公園  
【青葉の森公園HPより】
- ・新千葉県立図書館・文書館複合施設（設置予定）や青葉の森公園芸術文化ホールなど県立の文化施設が集まっており、連携による文化活動の展開が可能であり（MLA連携など）、文化観光の拠点となる
- ・広域避難場所にも指定されており、災害の影響が比較的小さい
- ・公共交通機関や自家用車等の様々な交通手段で訪れることができる



国土地理院地図を一部改変



青葉の森公園HPより一部改変

#### アクセス

【電車・バス】JR千葉駅、JR蘇我駅よりそれぞれバスで約15分

【徒歩】千葉寺駅から徒歩約20分

【自家用車】松ヶ丘ICから約5分、千葉東JCから約10分

## 5-1 基本的な考え方

これからの中央博物館の常設展示についての基本的な考え方を以下のとおり定めます。

展示の基本的方向性／コンセプト

千葉の「おもしろい」が  
来館者一人ひとりを知の探究・創造へと導く展示の具現化

展示の基本的な考え方

1

千葉との出会いから「おもしろい」の発見、一人ひとりの探求へと導くストーリー

興味関心や知識の異なるさまざまな層に対応し、一人ひとりの知的好奇心を呼び覚まし、導いていく展示の具現化

2

自然と歴史、文化の多彩な広がりを体感し、一人ひとりの「おもしろい」が見つかる展示

中央博物館が蓄積した資料を主軸とした展示により、半島ちばの自然と歴史、文化の多彩な広がりを展開し、来館者の知的好奇心を喚起

3

最新の研究や資料収集の成果をタイムリーに発信

常に国際的な視野から最新、最先端の学術的成果を千葉から世界に発信し、「千葉から世界に拓く博物館」を実現

4

展示室からフィールドへとつながる展示の具現化

来館者一人ひとりの知的好奇心を「フィールド」へとつなぎ、半島ちばの多彩な魅力を来館者が体感し、参加していくきっかけを提供

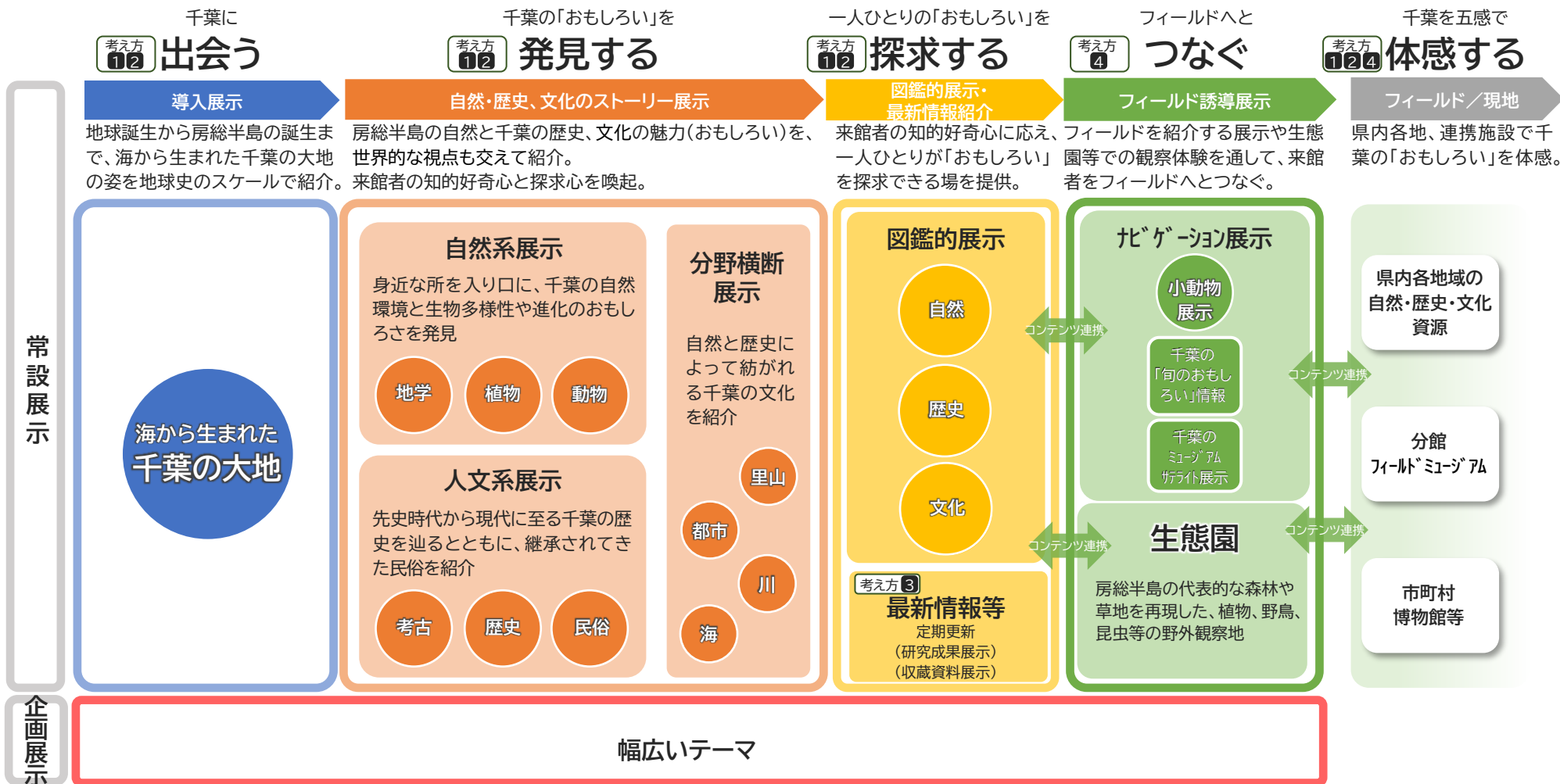
5

デジタルとリアル連携による知の創造拠点の形成

「おもしろい」を入りに一人ひとりの探求へと導く仕掛けとしてのデジタルミュージアム(アーカイブ)を展開。リアルとの連携を図る

5-2展示構成

地球史と世界的視点から千葉のさまざまな姿を発見・探求しながら、  
フィールドでの体感へとつながっていく展示構成  
「世界とつながる千葉」



企画展示

考える 5

デジタル(デジタルミュージアム等)とリアル(常設展示・企画展示等)の連携